

## “Hiroshima for Peace and Friendship”

### FFIワールドカンファレンス広島大会を終えて

FF広島会長 森川 高明



優秀指導者賞を受賞

2年以上にわたる準備に比べ、3日間の大会期間は一瞬の間でしたが、地元クラブの達成感と大会参加者の感銘を思い起こしながらこれを書いています。当クラブの広島開催の提案は、FFI会長承認と同理事会の決議を経て決定されました。FFJのバックアップを頂きながら、地元広島クラブ内に設けた企画運営委員会とプログラム担当の努力と工夫により広島大会が成功裡に終わったことを素直に喜びたいと思います。

3度にわたるFFI本部の訪問、さらに2度にわたる会長を広島に迎えての協議の結果決まった広島開催のテーマ、「広島から平和と友情を」と世界中からこの地に集うコンセプト、「ヒロシマ巡礼」が実現した大会だったといえます。さらに、広島での世界大会開催は、地元のみならず国内クラブの会員さんに世界大会参加の機会を提供するという狙いが当たり、国内参加者が200名近くに達したことは成功したと判断しました。

大会は天候にも恵まれ、平和記念公園内にある広島国際会議場とANAホテルを機能的に使いながら、ヒロシマらしさを意識した大会プログラムとユネスコ世界遺産や瀬戸内の歴史と景観を楽しんでもらえるイベントを準備し、参加者に存分に堪能してもらったことと思います。特に、2日目を「ヒロシマデー」と位置付け、参加者に67年前にこの地で何が起きたのかを知ってもらい、ヒロシマが発するメッセージとは何かを考えてもらう機会を提供しました。

私からは、自らの被曝体験を交えた被爆の実相と平和構築への道筋を伝え、さらに、広島平和文化センターのリーパー理事長からは戦争文化から平和文化への転換の大切さを教わりました。参加者は、被曝体験記朗読会に参加の後、慰霊碑参拝と献花式に参列、さらに公園内の慰霊碑を巡り原爆犠牲者に祈りを捧げました。ヒロシマデーで心に残るハイライトは、世界中から集まった1万3千羽の折鶴で作られた13束の千羽鶴を原爆の子の像に奉納したこと、また、夜は元安川べりで行った200個の灯籠流しでした。平和のメッセージを川面に映しながら原爆ドームを背景に流れゆく灯籠を、参加者がいつまでも見送っていたのが印象的でした。

11月中旬、私たちはブラウン会長の退任表明のニュースを聞かされることとなります。私には、今更ながら、会長が開会式で述べた多くの言葉が思い出されます。開会式の挨拶で会長は私たちが広島にいる理由を問いかけました。世界大会で学び、実行するにもっともふさわしい場所が広島であること、それは広島が戦争の悲惨さに思いを寄せることで、人々に平和実現への行動を起こさせる場所であると会長は言いました。FFの3人の創始者が活動を開始した時の「友情を通じて平和を」と広島大会の「広島から友情と平和を」の2つのテーマの共通的意義を強調しています。さらに会長は、「帰国後、あなたがヒロシマに行ったことをぜひ皆に伝えてほしい、そしてなぜヒロシマに行ったのかと尋ねられたら、それは平和と友情の巡礼に参加するために行きました」と伝えてほしい、また、「変革をもたらし、影響を与えるフレンドシップという大きなうねりを見ることができました」とも伝えてほしいと言っています。そして個人的に、FFI会長を退任するにあたって素晴らしい世界大会であったことに感謝すると伝えてきました。私は、これは広島大会成功への最大の賛辞と受け止めました。(完)



ホストカップ・表彰盾・レプリカ

森川会長の指揮のもと、2年がかりで準備を進めてきた一大プロジェクトである第35回FFI世界大会が平和都市広島で10月31日から3日間の日程で開催され、大会が好評のうちに成功裡に終了しました。

これは、広島地区のメンバーを中心に緻密な計画、検討、準備がなされその努力と熱意が大会を成功に導いたものと思います。長期にわたる関係者のご努力に心から敬意を表したいと思います。

特に本大会は、弓手副会長が提案された“Hiroshima for Peace and Friendship”のスローガンのもと、テーマがはっきりした素晴らしい大会であったと多くの国内外の参加者から絶賛の言葉をいただいております。

また、森川会長がカンファレンスホストとしてFFIからSpecial Awardを受賞されたことも特筆すべきことで、これは森川会長の卓越した企画力、指導力及び熱意が認められ受賞につながったもので、大変喜ばしいことであり参加者全員で喜びを分かち合いたいと思います。

私は途中からではありませんが、オープニングの和太鼓の演奏につき、FFIとの条件交渉、黒瀬高校との調整等のお世話をさせていただきました。また大会期間中は、10月30日からANAホテルに滞在し運営全般にかかる細かいお世話をさせていただきましたが、20ヶ国370人以上にも及び多国籍のメンバーをマネージする難しさを身を持って体験することができ、大変勉強になりました。

大会後のホームステイは、11月3日から5カ国19名（広島：4 三次：2 福山：13）のアンバサダーを受け入れました。今回は直前迄、変更、追加が頻発しホストの方には大変ご迷惑をおかけしましたが、皆様のご理解とご協力によりFF精神に基づく有意義なKitchen Table Diplomacyを実現することができました。本誌を借りて厚くお礼申し上げます。

## 第35回 FFIワールドカンファレンス広島大会スケジュール

10月31日（水）	開会式：歓迎和太鼓、ホストカップ引継ぎ、副知事挨拶、FFI理事挨拶、基調講演 全体会：35周年記念DVD上映、ジョージ・ブラウン会長講演 ワークショップ：「日本文化紹介」（FF広島企画・運営）を含む9テーマの学習
11月1日（木）	「ヒロシマデー」 全体会：広島市助役講演、被爆体験談（森川会長）、平和記念講演（広島平和文化センター理事長） ワークショップ：8つのテーマの学習 平和学習：被爆体験朗読会、慰霊と献花、公園内碑めぐり、千羽鶴奉納、資料館見学、灯籠流し
11月2日（金）	閉会式：日本舞踊、ウエインスミス賞（伊藤FF新潟会長）ほか表彰、閉会の辞（愛知名誉顧問） 広島エクスカージョン：6コースに分かれて日帰り旅行 ガラパーティー：鏡割り、インドネシアンダンス、ジャズ&ダンス、ニューオーリンズへのお誘い
11月3日（土）	ポストカンファレンスツアー：瀬戸内海クルーズ、運命の梵鐘ツアー、禅と仏教体験ツアー（1泊）
11月3日～7日	ポストカンファレンス ホームステイ：5カ国19名を広島・三次・福山で受入れ

## 開会式

それは黒瀬高校の和太鼓ファンファーレで始まりました。続いて、満を持してブラウン会長が広島での世界大会の意義とそれに続くFFIの将来について述べた後、参加22カ国を次々に紹介しました。その後、ハンブルグクラブのウルフガング・ドイツさんからFF広島にホストカップが引き渡されました。広島県を代表して城納副知事から歓迎の言葉を頂き、さらに、FFI理事の余村とこさんの挨拶、引き続き、前FFI理事のシェリー・ミュラーさんの基調講演がありました。総合司会は、FFI大会担当ディレクターのデビー・パウエルさんが流暢な日本語を交えて行いました。（森川高明）



和太鼓演奏（黒瀬高校生徒）



総合司会（D・パウエルさん）



歓迎あいさつ  
（広島県城納副知事）



開会あいさつ  
（G・ブラウン会長）



FFI理事あいさつ  
（余村とこさん）



ホストカップ（ハンブルグー広島）



## 日本文化紹介

FFI世界大会の準備が始まった当初は不安でしたが、日本文化体験をお手伝いすることになりました。福山地区の女性会員の皆さんと千羽鶴を折り、繋ぐ過程で互いに親しくなることができたことは、FFI世界大会からの予想外の贈り物でした。大会を綿密に計画し進めてくださったリーダーの皆様、本当にありがとうございました。（菅原千恵子）

### 折り紙

折り紙は主に鶴を折りましたが、逆に複雑なカエル（カエルの）の折り方を教わったりして楽しかったです。世界中の皆様からの平和を祈る気持ちを込めた千羽鶴はインパクトがありました。（松本浩子）



### 福笑い

福笑いは、身振り手振りで遊び方は充分伝わり、皆さん、完成(?)した「Funny Face」を見て、大いに盛り上がっていました。ホームステイに出かける際には、お勧めのお土産です。（山本鈴子）



### けん玉

私たちが子供の頃に遊んだ道具を出来るだけ集めて持参し展示しました。凧、鯉のぼり、竹トンボ、水鉄砲、コマ、お手玉、けん玉、羽子板、風船等々でしたが実演出来るものは練習して臨みました。外国人が手軽に出来る、けん玉、お手玉が一番の人気のようにでした。（神森且視）



### お手玉

お手玉は、来て頂いた方が「子どもの頃やったことがある」ということで、童心に帰って楽しく遊びました。遊び方も似ていました。共に楽しい時間を過ごせて嬉しかったです。有り難うございました。（田村誓子）



### お習字

「お習字コーナー」では、用意した見本のカタカナ表を見ながら、それぞれの名前書きや、4文字の漢字手本から好きな漢字を選び、計3枚書く形で、持ち帰って頂きました。今回、福岡、鳥取会員2名が快く手助けしてくださいました。（竹内はるみ）



### あやとり

あやとりのできる技が種類しかない上に、英語力もおぼつかなくてどうなることかとドキドキしていました。アメリカ、カナダ、マレーシア、台湾、ドイツなどたくさんの方とふれ合うことができ、2人あやとりなどでは、笑いながら楽しく交流もできました。（阿部真由美）



### お茶席

お茶席は、表千家の植村昭子先生とそのお弟子さん達が立礼式のお点前で、お客様をおもてなし、「一碗から世界平和を」への願いを伝え、日本伝統文化の一端を紹介しました。墨跡『四海同風』に世界大会への思いが託されていました。（廣森彌生）



### 着付け

着付けコーナーでは、外国の人でも、できるだけ美しく着物を着てもらいたい、それが気持ちから離れませんでした。一番大変だったのは、希望者が幾人なのか?でも出来るだけの準備をし、外部の協力も得て、3時間無事にやり終えた事、皆様お疲れさまでした。（的場信子）





# ヒロシマデー

原爆の悲惨さを通して平和を希求する、ヒロシマでしか出来ないこのイベントを被爆者である森川会長の強いリーダーシップで成功裏に終えた事はうれしく思います。午前には「広島：破壊と復興」のテーマで3者のスピーチがありましたが、森川会長のご自身の体験を踏まえたスピーチは感動的でした。その後、涙する人もおられた「被爆体験記朗読会」そして平和公園のモニュメント巡り、資料館見学とプログラムを進めました。このガイドには広島の5ボランティアグループから26名の応援を頂き、およそ400名の大会参加者の案内ができました。最後は、元安川での灯籠流しをしました。幻想的な雰囲気の中で戦争で亡くなられた方々の魂をお慰めする事ができたと思います。(山内康平)



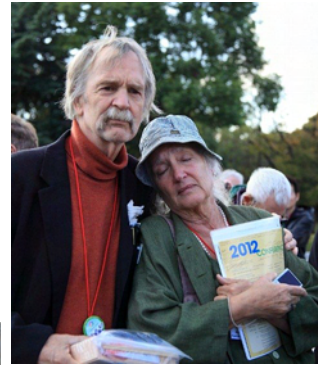
森川会長による平和講演



被爆体験記朗読会



S・リーパー氏による資料館説明



慰霊碑に献花する  
ブラウン会長と森川会長



世界中からの千羽鶴



平和公園内の碑巡り



平和の鐘



元安川べりで行った200個の灯籠流し

## 閉会式

閉会式での花柳流日本舞踊は、皆さんに日本のあでやかさを十分感じてもらえました。続いて、この1年間のFF活動に貢献したクラブ、個人に対する表彰が、さらに、2013年の第36回世界大会（ニューオーリンズ）への招待スピーチが、米国人作家、「マーク トゥウエイン」（フロリダ州サンコーストクラブ、エドワード・ヘルムさん演出）から行われ、会場から喝さいを博しました。次にFFJ名誉顧問で東京クラブの愛知和男さんから、広島クラブの努力で世界大会を日本で開催できたことに対して謝辞が述べられました。最後にFFI 理事長のアラン・ミルンさんが演台に立ち、広島大会の成功を講えるとともに、FFIの辿った道がこれからも続くことを願い、ブラウン会長のリーダーシップを高く評価していたことが印象的でした。(森川高明)



花柳比呂伊さん  
竹内佳代子さんの日舞



E・ヘルムさん



愛知FFJ名誉顧問



A・ミルンFFI理事長

閉会式での日本舞踊の担当でした。私たち日本舞踊グループは、花柳比呂伊先生の指導の元、長い間稽古を重ねてきました。当日は、式のオープニングで踊るということで朝早くから準備をしました。季節にふさわしい「紅葉の橋」と、大会の成功を祝って「寿」を披露しました。皆さんに喜んでてもらえたとしたら、うれしいです。私にとっても貴重な経験でした。  
(竹内佳代子)



# 広島エクスカージョン

11月2日、心配していた雨も降らず、この時期としては割合暖かい薄曇りの天候の下、出発時のバタバタはありましたが、怪我や事故もなく、ほぼスケジュール通りに17カ国260名余りの小旅行が無事に終わって、ホッとしました。これも、各コースのアテンダントをして下さった方々、弁当の手配や準備、手渡しなど種々のお世話をして下さった方々のお陰です。エクスカージョンのまとめ役として、皆様のご協力に心から感謝です。参加された各国の皆さんは、広島近郊の美しい景色を十二分に楽しまれたと思います。私自身も、各コースの現地事前チェック、迷子防止策検討、コスト計算とFF本部との折衝など、思い出に残る経験をさせて頂きました。皆さん、有難うございました。（上田敬三）



FFI本部で今回のConference Director のD・パウエルさん夫妻とその坊やも一行のメンバーでした。



岩国城天守閣から望む錦川・錦帯橋

## 岩国コース

日本人女性5名を含め、8カ国、総勢26名が中型バスに乗って、和気あいあいの小旅行となりました。秋晴れとはなりませんでしたが気持ちのいい気温の下、皆さん岩国のお決まりの観光スポットを楽しめました。特に、紅葉しかけた吉香公園、岩国城天守閣から見下ろす素晴らしい景色に“ワンドフル”でした。（上田敬三）



紅葉の始まった美しいもみじ谷



この景色を平山都夫画伯が描き、その絵が広島空港に飾られていることを説明しました。（井上久美子）

## 岩国・宮島コース

参加人数（91名）の多さと、タイトスケジュールでどうなるかと心配していましたが、大きな問題もなく、ほぼ時間通りに終える事が出来ました。5時間半で、岩国・宮島の2カ所の観光は、本当にハードでした。でも今は、「終わり良ければ、総て良し」の心境です。（山本鈴子）

## 呉・熊野コース

呉「大和ミュージアム」と熊野「筆の里工房」のバスツアーを担当しました。呉は私のホームタウンであり、日本人の参加者が多かった関係で、バスの中では、かつての軍港都市「呉」の紹介や、呉の酒のコマーシャル「グラスをのそくフラミンゴ」を流し、同年輩の日本人の方の共感を得ることができたと思います。素人によるつたない英語のガイドでもツアーを楽しんでいただけたとしたら幸いです（竹内征治）

写真は帰りのバスの中。皆さんすっかり疲れました。でも和気あいあいの楽しく気持ちの良い半日を過ごされました。



## 広島市内コース

参加者20名。広島城、縮景園、ひろしま現代美術館を巡りました。縮景園では、日本庭園の美しさに感動！茶室前で、なんとか1枚、全員集合の写真が撮れました。（廣森彌生）



サンドイッチランチ

## 茶道体験コース

参加者20名。上田宗箇流の方の説明をボランティア通訳の方が英語、その後ロシア語にという場面もありました。しかし様々な工夫のなされた和風堂は見るだけで分かることが多く、また最後には美味しい和菓子とお茶を全員で頂きました。（松本浩子）





## ガラパーティー

大野徹バンドによる軽音楽のオープニングで始まったガラパーティー。山岡酒造贈呈の瑞冠で鏡割り、インドネシアの民族ダンスに興じ、食べて、飲んで、語って、踊ってと最高に盛り上がり、フィナーレを次期開催地ニューオリンズのデモンストレーションで締めくくりました。（廣森彌生）



山岡さん夫妻と愛知さん



鏡割り由来説明（井上さん）



鏡割り



インドネシアダンス



ラッフル（募金目標達成）



竹内 亘さん夫妻とD・パウエル一家



ディナーを楽しむ川瀬さん親子



ラッフル（K・トマスさん）



E・リーパーさんと森川会長



FF広島ディナーテーブル



ダンスを楽しむ谷口さんと川瀬さん親子

## カラオケパーティー

大会企画当初から、カラオケが決まるほど、カラオケは世界に浸透した日本発の文化になっています。今回、山口クラブの女性会員3名がセーラー服姿で援助出演し盛り立ててくれました。最後の“YMCA”の国際大合唱は圧巻でした。（森川高明）



FFJ石井さんとD・パウエルさん



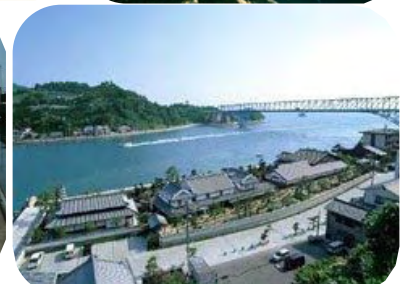
山口クラブ3人娘と歌うS・ラーセンさん



大会後の小旅行は参加者の大きな楽しみであり、参加者が文化や歴史を識る良い機会でした。秋の瀬戸内を巡るクルーズ、カーター元大統領の足跡と梵鐘を訪ねるツアー、禅と仏教の宿泊体験、いずれも参加者から良い思い出になったとの感想を頂きました。（森川高明）

## 瀬戸内海クルーズ

当初の参加予定人数の大幅減により実施が危ぶまれましたが、FFIのデビーさんと連絡をとりつつ調整し、小型船への切り替えによりなんとかクルーズ実施の運びとなりました。英語通訳のボランティア参加も得て、快晴・微風の天候に恵まれたため、呉、音戸の瀬戸、安芸灘をへて蒲刈島と大崎島にいたる海上ツアーを参加者に楽しんでいただけたのではないかと思います。（竹内征治）



## 禅と仏教体験ツアー

外国人にとって仏教は不思議の世界です。この貴重な体験ができるツアーを天台宗行者山 太行寺（広島市西区）東 和空 副住職にお願いしました。18名の参加者は、護摩供養、法話、瞑想、写経、仏画、勤行、座禅など多彩なプログラムに参加し、慣れない座禅や食事に戸惑いながらも感動を味わった1泊2日でした。（竹内 巨）



座禅堂で慣れぬ坐禅をくみました。



## 運命の梵鐘ツアー

4時間という短い甲奴町滞在となりましたが、国際交流のきっかけとなる梵鐘のあった正願寺を訪問し、梵鐘を突いたりツアー参加者の方には甲奴町自体と交流の歴史を十分体感していただけたのではないかと思います。FFI世界大会に微力ですが参加できたことに感謝します。（小川正樹）



カーターセンターで記念植樹

酒蔵見学（山岡酒造）



正願寺で昼食前の合掌



三次地区での交流会

三次地区会員の井上さん宅にホームステイされたカナダ人のクラレスさんとドナさんとの食事会の席で、地元クラブの運営のあり方、メンバー同士の密な交流、また年2回の渡航や受入れなどの話が聞けて、とても有意義な食事会となりました。（山岡美佐保）



## Post Conference ホームステイ

第35回FFI世界大会の後、5カ国から広島地区4名、三次地区2名、福山地区13名、総勢19名を受け入れました。今回は通常のClub to Clubの交換ではなくホスト側、アンバサダー側とも正規にEDを任命していないため統制が取れず準備段階で調整に手間取り、ホストのみならずご迷惑をおかけしました。私は事前調整と各ホストへアンバサダーをお渡しするまでの准ED的なお世話をさせていただきましたが、受け入れ対応についても正規のEDを選任する必要性を感じました。ポストカンファレンスのホームステイは組織的な行動でなく個人の行動規範にゆだねるところが大きく今後FFIにも意見を陳べ改善していきたいと思えます。(猪原俊郎)



ゲストは、韓国からの女性2名。広島での滞在を「今まで行った中で今回が一番よかった」と喜んでくださいました。それは、FF広島会員がデイホストとして、素敵な協力をしてくださったことにあります。MA、STさんらと料理、民族衣装着付け体験、歌、おしゃべりに花が咲きました。また、HTさん宅では、楽器の生演奏あり、心温まるおもてなしありで、こうした広島クラブ会員の歓迎に“*We are the family*”を感じていただけたためかと思いました。(谷口昌史・悦子)

この度は、タイ(バンコク)のムッタさんとベトナム系アメリカ人のランさんが4泊5日ほど滞在しました。鞆、しまなみ海道(生口島)の観光、沼隈の無明院での禅体験と枝広邸での茶道体験をしてあわたくし沖繩に向けて発って行きました。もう少しゆっくと話がかたかったです。(延広正行・路子)



アメリカの兄弟Haroldさん(86歳)とLeonardさん(80歳)の受け入れでした。4日目に疲れがでたのか、お兄さんが少し体調をくずされ家で安静にしていました。弟のLeonardさんは、息子の嫁の由佳ちゃんらと芦田川浄化センターと岡山の後楽園に行きました。2人は水・建物・教育についてとても興味があり、特に浄化センターではよく質問をしておられました。帰宅後、弟さんに一緒に行けたら良かったのとしきりに話していました。今回の受け入れでは、由佳ちゃんの助けがあってとても助かりました。一緒に楽しんでくれとても良かったです。(内海智恵子)



FFI世界大会終了後の11月3日(土)午前、タイ、アメリカ、カナダ、ネパールからの4カ国13名は広島駅から尾道駅まで移動。ホストとベッチャー祭りやカラオケを楽しみました。歌とピアノはプロ並みのカナダのDianeさんとJaneさん。11月4日、皆で鞆の浦散策中コーヒー・ブレイク。11月5日、DianeさんとJaneさんはゲストティーチャーとして福山市立大学へ。アメリカのHaroldさんとLeonardさんもホストとデイホストと一緒に授業に参加しました。(弓手 博)



鞆の浦にて



福山市立大学の学生と



この度、ネパールのシバさんと奥様のマヤさんのホストファミリーをさせていただきました。ネパールは神秘的な感じがして、以前から興味があったので、会話が弾みとても楽しい時間を過ごすことができました。夕食に鍋料理をすると、とてもおいしそうに食べて下さったのが嬉しかったです。(金森のり子)

### 今年の予定

- 6月：ホノルルクラブ渡航(6月6日出発予定) ※詳細日程は未定
- 10月2日～4日：オマハクラブ ショートステイ【ホテル】受入れ(広島地区)
- 10月8日～14日：フロリダクラブ受入れ(広島・福山・三次地区)
- 10月18日/19日：FF西日本ブロック大会/FF日本大会(会場は米子市コンベンションホール)
- 11月22日～25日：第36回FFI世界大会(ニューオーリンズ, LA, USA)

### 編集後記

皆様から編集委員のもとにお寄せいただいた多くの写真や原稿のおかげで、FFIワールドカンファレンス広島大会が盛会に終わったことを発信できる大会特集号となりました。当初の予定より遅れましたが、大会特集号として2号が発行できたことを皆様に心より感謝申し上げます。

〈編集発行〉フレンドシップフォース広島クラブ

ホームページ <http://www.friendshipforce.jp/hiroshima/hiroshima-profile-J.pdf>

〈広報委員〉廣森 彌生・松本 浩子・中垣 健一 E-mail: k.nakagaki6795@city.miyoshi.hiroshima.jp